

資料

清浄豚の飼料給与量の設定およびと殺日齢が 肉質に及ぼす影響について

安東 秀郎* 大塚 不二夫*

はじめに

岡山県では、食肉の需要に応じて、養豚振興を積極的に進めることで、養豚振興計画を樹立し、昭和46年の年間肉豚生産頭数13万頭、また昭和50年には、16万頭の増頭計画がある。そのうち47%、すなわち76,900頭を清浄豚に変換し、経済性の高い、きれいな豚に移行する方針である。

経済連種豚増殖センターの設置

経済連においては、県の養豚振興計画に併せて、経済性の高い清浄豚を普及することで昭和47年2月、経済連種豚増殖センターを設置し、種豚の増殖および系統農協への払下げを実施し、なお、この新しい清浄豚の飼育についての経済的調査ならびに適正な飼料給与量の基準設定のための試験などを実施している。

清浄豚の肥育試験

肥育試験にはケージ式豚舎を利用し実施した。ケージ式豚舎での肥育は同センター開設以来初めての試みでもあり、また、年間を通じ豚に対する環境の一番悪い酷暑の時期でもあった

ので、その成績を懸念していたが、表1のとおり清浄豚としての良好な成績を上げることができた。

肥育試験については次の条件下で肥育した成績をまとめた。

1. 試験期間

昭和47年9月～昭和48年3月にわたっての出荷成績を取りまとめた。

この試験肥育の期間中は、年中一番悪い酷暑および酷寒時の飼育豚の成績を取り上げることとなった。

2. 給与飼料は

岡山ストレートン39（地区配合飼料）1日に朝夕2回給与、飲水は自由。

3. 飼料給与量については

系統では試験成績がないのでセンター独自で設定したものを基準として表2の基準値を給与した。

4. 供試豚は、当センターで生産したものをケージ豚舎で飼育した。

5. 素豚価格の算出基礎は、体重kg当り350円とした。

6. 枝肉歩留りの対象は、出荷時体重とし、出荷翌日と殺した。

表2 試験豚飼料給与基準量目安

体 重 (kg)	25~30	30~35	35~40	40~45	45~55	55~65	65~80	80~100
1日の給与量 (kg)	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2

* 岡山県経済連

表1 清浄豚の飼料給与量の設定および殺日齢が肉質に

出荷月日	区分番号	品 種	性	生年月日	30 kg 時 日 齢	肥育開始 時 日 齢	肥育開始 時 体 重	出 荷 時 体 重	生 後 日 齢	
47. 9.21	2	L	又 キ	47. 4. 7	73		38.1	92.4	167	
	3	"	"	"	75		35.4	88.4	"	
	9	"	"	"	73		37.2	92.4	"	
	6	"	"	"	73		39.5	88.0	"	
	1	"	"	"	71		41.6	92.0	"	
	計	5 頭				365		191.8	453.2	835
	平 均				73		38.4	97.6	167	
47.10.18	24(3)	L	又 キ	47. 4.25	73	74	31.0	94.0	175	
	22(4)	"	"	4.25	73	74	31.2	95.0	175	
	26(5)	"	"	4.25	72	72	30.0	96.0	175	
	16(6)	"	"	4.23	72	73	30.0	94.5	177	
	18(7)	"	"	4.25	68	70	32.5	98.5	175	
	10(8)	"	"	4.23	76	76	30.5	95.0	177	
	15(9)	"	"	4.23	78	78	30.8	93.5	177	
	19(10)	"	"	4.25	84	84	30.0	88.5	175	
	計	8 頭				596	601	246.0	755.0	1,403
		平 均				75	75	30.8	94.4	175
47.11.21	28(37)	L	又 キ	47. 5.15	71	77	34.0	98.5	189	
	45(38)	"	"	5.24	70	68	29.0	95.0	180	
	46(39)	"	"	5.24	74	75	30.5	96.5	180	
	47(40)	"	"	5.24	73	75	31.7	96.7	180	
	41(41)	"	"	5.21	76	78	31.4	90.0	183	
	100(42)	"	"	5.24	75	75	30.0	92.0	180	
	67(43)	"	"	5.26	74	75	30.7	91.5	178	
	31(44)	"	"	5.15	92	90	29.0	100.0	189	
	計				605	613	252.6	760.2	1,459	
	平 均				76	75	31.5	95.0	188	
48. 3. 6	52	L	又 キ	48. 9. 6		69	24.3	90.0	180	
	53	"	"	9.11		64	24.3	90.0	175	
	54	"	"	9. 5		70	27.6	91.0	187	
	55	"	"	9. 2		73	27.6	96.0	184	
	56	"	"	8.30		76	24.6	94.0	187	
	57	"	"	9. 2		73	23.0	91.0	184	
	58	"	"	8.30		76	24.0	95.0	187	
	59	"	"	8.30		76	24.0	91.0	187	
	60	"	"	9.13		62	25.0	91.0	173	
	61	"	"	8.30		76	27.0	97.0	187	
	63	"	"	8.30		76	25.0	86.0	187	
	67	"	"	8.30		76	25.5	96.0	187	
	69	"	"	9.13		62	26.5	93.0	173	
	計						929	328.4	120.1	237.8
	平 均					71.4	25.3	92.4	183	

及ぼす影響について調査するための試験成績

(岡山県経済連種豚増殖センター)

枝肉歩留り	1日当り増体重	産肉性				給与した飼料量	1kg増体に要した飼料費	飼料要求率	枝肉規格
		と体長	肩脂肪	背脂肪	腰脂肪				
73.1	670	89	3.6	2.2	2.5	157.4	109	2.89	上
72.0	654	88	3.0	1.7	2.0	157.4	111	2.97	上
70.0	681	83	3.8	1.2	2.3	157.4	107	2.84	中
72.0	600	90	3.2	1.7	2.2	157.4	122	3.25	上
71.7	622	90	3.4	2.6	2.3	158.6	117	3.08	上
358.8	3,227	440	17.0	9.4	11.3	788.2	566	15.03	
71.8	605.4	88	3.4	18.8	2.3	157.6	113	3.0	
72.9	624	96.0	3.4	2.3	3.4	198.4	118	3.17	中
67.8	632	93.0	3.3	2.0	3.3	197.4	113	3.09	上
74.0	640	95.0	2.6	1.6	2.8	200.35	134	3.04	上
72.9	620	98.0	3.5	1.8	3.2	201.60	116	3.13	中
71.1	629	92.0	3.0	2.2	2.2	204.15	116	3.24	中
73.2	638	98.0	3.7	2.0	3.3	195.4	114	3.02	上
71.0	633	96.0	3.3	1.8	2.7	181.85	109	2.90	中
76.2	643	95.0	3.7	1.8	2.6	173.95	112	2.97	上
579.1	5,059	763.0	26.5	15.5	23.5	1,553.1	932	24.56	
72.4	632	94.4	3.3	1.9	2.9	194.13	116.5	3.07	
72.6	547	96.0	3.2	1.8	3.2	199.31	116	3.09	中
71.5	510	95.5	2.7	1.2	2.3	202.62	115	3.07	上
76.3	640	92.0	2.9	1.0	2.7	194.70	111	2.95	上
75.0	607	95.0	2.8	1.5	3.0	188.50	109	2.90	上
70.0	510	95.5	3.0	1.4	3.1	182.83	117	3.12	上
69.6	590	93.5	3.5	2.3	3.4	184.76	112	2.98	中
66.2	585	94.5	2.8	1.0	2.8	179.36	111	2.95	上
68.3	731	98.0	2.9	1.1	2.6	192.2	102	2.71	上
569.5	4,720	760.0	23.8	11.3	23.1	1,524.28	893	23.77	
71.2	590	95.0	2.9	1.4	2.9	190.54	112	3.03	
80.6	592	95	4.5	2.5	4.0	198.5	115	3.02	中
81.1	592	94	4.2	2.0	4.0	198.5	115	3.02	上
76.7	571	99	3.5	2.0	3.5	198.5	119	3.13	上
68.1	616	92	3.8	2.0	3.5	198.5	110	2.90	上
72.9	625	97	4.0	2.0	3.5	198.5	109	2.86	上
72.0	613	95	4.0	2.0	3.5	198.5	111	2.90	上
71.6	640	95	4.2	3.0	4.0	198.5	106	2.79	中
76.9	604	97	4.0	2.0	3.0	198.5	113	2.96	上
76.4	586	95	4.5	3.0	4.0	187.0	108	2.83	中
71.1	636	98	4.0	2.8	3.0	187.0	102	2.69	上
75.5	550	95	4.0	2.5	3.3	185.0	118	3.03	上
72.4	635	98	4.0	2.5	3.2	185.0	90	2.63	中
77.4	599	97	4.7	2.0	4.0	185.0	105	2.78	上
972.7	7,859	1,247	53.4	30.3	46.5	2,517.0	1,421	37.54	
74.8	604	95	4.1	2.3	3.6	193.6	109	2.88	

表1のつづき

出荷月日	区分番号	品 種	性	生年月日	30 kg 時 日 齢	肥育開始 時 日 齢	肥育開始 時 体 重	出 荷 時 体 重	生 後 日 齢
48. 3.12	62	L	ヌ キ	48. 8.30		76	25.0	90.0	194
	64	"	"	8.30		76	27.0	106.0	194
	65	"	"	8.30		76	25.0	99.0	194
	66	"	"	9. 2		64	25.0	100.0	191
	68	"	"	8.30		62	26.0	98.0	194
	70	"	"	9. 2		69	29.0	100.0	191
	計					423	157.0	593	115.8
平 均						70.5	26.1	98.8	193
48. 3.14	40	LH	ヌ キ	48. 9.13		70	26.4	90	181
	41	"	"	9.18		65	26.4	93	176
	42	"	"	9.18		65	24.0	95	176
	43	"	"	9.13		69	25.0	100	181
	44	"	"	10. 5		65	25.0	88	159
	45	"	"	10. 5		65	26.0	87	159
	46	L	"	10. 1		61	25.8	92	163
	47	LH	"	9.18		74	26.5	90	176
	48	"	"	9.18		74	27.7	90	176
	49	L	"	10. 1		61	24.8	87	163
計					669	257.6	912	171.0	
平 均					66.9	25.8	91.2	171	

(注) 1. 飼養方法はケージによる単飼; 供用飼料は DCP 12.22, TDN 71.68 のペレット単一飼料で制限給与。
 2. この試験は、意識的に肥育期間、飼料給与量を変えて検討したので、経済性の追求からみれば多少目的がちがうので、この点を理解のうえ検討されたい。

7. 給与飼料名および成分量

岡山ストレートン39

DCP 12.22 TDN 71.68

試験成績のとりまとめ

この試験は、清浄豚の経済能力の追求と今後の飼育基準の設定が目的で行なったために、試験グループによっては、意識的に肥育期間飼料給与量を変えて検討したので、各グループ同一成績を求めるに多少の無理がある。

従ってこの試験は、それぞれグループごとの検討所見が心要であるが、試験結果において基本的に大きな差異がないことから次のとおり要約できる。

1. 飼料給与量については、一般豚の給与量に比較して 10~30% 方の給与量の節減可能で

あることを確認することができた。

2. 飼料費については、生体重1キログラム増体に要した飼料費が安価であった。113円前後(109円~116円)。

3. 飼料要求率が低く良成績であった。約3前後(2.88~3.07)。

4. と殺日齢については、肉質の改善からみて日齢において多少の幅をもって検討してみたが枝肉格付上大きい差異は認められなかった。現在、清浄豚振興対策協議会において設定している「清浄豚経営技術指導指標」の示す日齢180日目標の妥当性を認めた。

今後の課題

(イ) 本試験方法はケージ豚舎に繋留し制限給与によるものであるため、今後の試験とし

枝肉歩留り	1日当り増体重	産肉性				給与した飼料量	1kg増体に要した飼料費	飼料要求率	枝肉規格
		と体長	肩脂肪	背脂肪	腰脂肪				
67.0	542	95	3.5	3.0	3.5	208.0	122	3.20	上
75.0	584	97	4.5	3.0	4.0	224.0	108	2.83	中
73.5	628	92	4.0	3.0	3.0	224.0	115	3.02	中
77.5	590	98	4.0	3.0	3.5	231.0	117	3.07	上
68.0	545	94	3.5	2.5	3.5	231.0	122	3.21	上
71.0	582	97	4.0	2.5	3.5	216.0	116	3.04	上
432.0	3,471	573	23.5	17.0	21.0	1,334.0	100	18.37	
72.0	578	95	3.9	2.8	3.5	222.3	116	3.06	
79.4	572.9					193.3	116	3.04	上
78.0	600.0					200.5	114	3.01	上
76.8	639.6					215.3	115	3.03	上
81.0	669.6					215.3	109	2.87	上
73.8	670.2					188.1	113	2.99	上
70.7	648.9					188.1	117	3.08	上
74.5	649.0					188.1	108	2.84	上
73.3	622.5					188.1	113	2.96	中
73.3	610.7					188.1	115	3.01	上
70.1	609.8					188.1	115	3.02	上
747.6	6,293.2					1,953.0	1,135	29.85	
74.8	629.3					195.3	115	2.98	

3. 1頭当りの差益金額は、47年より48年のほうが少々良いようである。48年肉豚販売差益 14,000~15,000円、素豚生産差益 5,000~6,000円、一貫経営約 20,000円
4. 肉豚販売の内訳明細については省略。

ては、平飼とケージ飼とに区分した比較試験を試み清浄豚としての経済性、飼育管理の指導指標の裏付の確証を求めたいと考えている。

(ロ) 清浄豚の発育、増体は素晴らしいものがある反面、肉質改善方法を工夫する必要があると考えられる。

今回の肥育試験は種豚場で生産した、ランド

レース種を主体にした試験豚であることで十分な経済性を発揮することはできなかったように思われた。

以上の成績から短期で仕上げるのに適合した種品交雑、また飼料配合、給与方法等によって一層清浄豚の経済性の向上がはかれるであろうことが示唆された。